

地球時代の教育情報誌 **エデュコ**
Educo **No.15**
2008年 冬



声楽家 巻頭インタビュー | 2

安田 様子さん

知っておきたい教育 NOW | 4

学力調査とその活用 北 俊夫
学習指導要領の改訂の方向性と今後の課題 工藤 文三

世界きょういく見聞録 | 8

職業意識を高めるドイツのキャリア教育 坂野 慎二

地球となかよしトピックス | 10

郷土を知り、郷土に親しむ
銚子市・外川ミニ郷土資料館

インフォメーション 北から南から | 12

地球となかよしメッセージ 2007 | 14
入賞作品発表

地球となかよしゼミナール | 18

食育は、人と自然の橋渡し 川畑 輝子

コラム いまどきコドモ事情 | 19

子どもの学力格差 香山 リカ

ほっとな出会い | 20

東京大学准教授・脳研究者
池谷 裕二 さん



やすださちこ 安田祥子さん（声楽家）

美しい日本語の響き、 感性の細やかさを21世紀に伝えたい



PROFILE

安田祥子

小学生時代はひばり児童合唱団に所属し、童謡歌手として活躍。東京芸術大学大学院修了。86年に妹の由紀さおりさんと始めた童謡コンサートは06年に2千回を超えた。08年4月21・22日東京国際フォーラムより、22年目の姉妹の全国ツアーをスタート。6月18日にはサントリーホール・ブルーローズにてソロリサイタルを予定している。

書籍紹介

『こころの音楽教科書 あしたへ贈る歌』

2,100円 小学館

次代に歌い継ぎたい歌60曲、すべてに伴奏譜つき。難しい歌詞の解説や、安田さん・由紀さおりさんの、歌への思いもつづられています。

どのようなことを伝えたいという思いで歌っていらっしゃるのでしょうか。

昔から歌われている歌は、生活に密着しています。人と人との思いやり、温かさなどを伝えられたらと思っています。そして、日本語の美しさです。四季や季節の移ろいの細やかさを歌っているものも多いですね。俳句の季語も二千以上あるといえますし、生活や季節を表す美しい日本語がたくさんあります。昔の歌、童謡にはそれがたくさん使われています。

昔の歌は、日本語のイントネーション、アクセントに旋律が合っていて、その流れの自然な歌が多く、例えば、滝廉太郎「花」の冒頭の部分です。そういった美しさ、成り立ちの自然

さを知って、きちんと残して欲しい。

また、今の若い人たちは「鼻濁音」をあまり使わないんです。学校でも詳しく教える機会が少ないんですね。歌のアクセントやリズムをつけるときに「ガギゲグゴ」がそのままになっている。それもリズムの一つではありますが、そればかりではなく、鼻濁音を使うほうがいい場合もたくさんあることも知ってほしいです。鼻濁音を使って歌うと旋律が滑らかになります。普段のおしゃべりの中でも、そういうことを知っていて、きちんと使える人は言葉がきれいだし、発音もはっきりしています。歌の中にそういう要素はいっぱいありますから、歌詞の中で自然にそういうことが学ばれていけばいいと思います。

います。本当はどういうことが美しいのか、ということですね。それを伝えていくことが、きれいな日本語を次世代に残していくことになると思います。

家庭で童謡を歌ってあげてほしい、とおっしゃっています。

「歌ってあげる」と言っても、教えるよう、さあそこに座って聴いて、というのではなく、何かしながら何気なく口ずさんでいるという感じですね。童謡を聴いたときにふと思いで、あれはお母さんが台所で歌っていたとか、おじいちゃんがお風呂に入るときに必ずその歌を歌っていたとか、そういうことのほうが心に残っているんです。そして、おうちのこと、家族のことを思い出す。そんなとき

に悪い感情は出てこないでしょう。

今、親子のコミュニケーション不足で、子どもの考えていることがわからないとよく言われるようになっていますが、そういう家族の思い出し、とても大事だと思います。お母さんがおうちで鼻歌を歌っていたりすると、子どもは「お母さんはきょう機嫌がいいんだな」と自然に察するし、ゆつたりとした気分になって、話しかけやすいでしょう。学校であったことを話したくても、機嫌がいいかわからないから今はやめとこう、みたいになってしまふのは残念です。歌を口ずさんで、それを子どもが聴く。そこから生まれる雰囲気、コミュニケーションをとる一つの材料にもなると思いますよ。

妹の由紀さおりさんと、各地の中学校で「手づくり学校コンサート」を開催されています。

今年度で6年目になります。今、中学校では音楽は週1時間程度しかないんですね。一番大事な、精神的なものが脇に置かれていく感じがして残念です。ですから、義務教育の最後である中学校に行って、昔の歌や童謡の美しさを知ってほしくて。情報を送っておきたいという危機感があつたんですね。

学校の体育館でやるといっても、ちゃんと暗幕をはり、私たちもきちんと舞台衣装を着け、照明も音響もスタッフを連れていきます。さつきまで走り回っていた体育館が、ちゃんとしたコンサート会場になっている。その非日常の中に2時間近く入っていたら、私たちも、本当に本気で歌います。こういう活動は本気で

ないとできません。

各地の学校に行くと、いつもにぎやかでばたばたしていて、どうなるんだろう、という不安は毎回あるんです。でも、ライトや音響など本物の舞台をつくり、こちらが本気で歌うことで、生徒さんたちが集中して聴くことにつながっているんですね。最後になるとみんな一緒に歌ってくれますし。

でも、生徒さんたちの多くは、大きな声を出すということが苦手なんです。マイクを向けて、お名前は？何年生？って聞いても、なかなか声を出せない。今の時代、積極的にしゃべらなくてもすむ環境になっているからでしょうか。先回りして親が何でもしてくれるから、大きな声でお父さん、お母さんと呼び、自分の考えを伝えようとする機会も少なかったのかもしれない。メールばかりというのもあるかもしれません。目を見て自分の思いを伝えるという経験が少なくなっているし、声を出して人に伝えることを恐れる、後でだれかに何か言われるのが怖いとか、人のことばかりが気になるという風潮もありますよね。

でも、最初は引っ込み思案で目が

合わないようにしているのに、こちらが本気で声を出すことで、生徒さんたちが自分もそれに見合う、それを超えるような声を出さないと、という雰囲気になって、生徒さんたちの歌ってくれるバックコーラスの声も大きくなってくるんです。

子どもたちは、私たちが舞台の上で少しでも「休め」という雰囲気になつてしまうと、あつという間に気持ちが悪くなっていく。だからいつもとても怖いんです。集中してずっと引っ張っていかなければいけない。すごくエネルギーが要りますが、目が合わないようにしていた生徒さんたちが、帰り際には自分から握手を求めて、こつちにも来てくださいます。大きな声で呼びかけてくれます。それで元気をもらって次につなげられるんです。

生徒さんたちが日本の歌のよさを知って、外国で一つでも紹介できるようにになってくれればうれしいと思います。

発展途上国の子どもの援助にかかわったり、歌を伝える輪を広げたり、多方面で活躍しておられます。

プラン・ジャパン（注：財）日本

フォスタープラン協会）の評議員になつています。夫の母がエリザベス・サンダースホーム（戦後の孤児救済施設）を立ち上げた澤田美喜、娘が国連難民高等弁務官事務所の仕事をしていたということもあり、世界の子どもたちの架け橋になるようなことができたという思いは昔からありました。日本のいい歌を歌ってあげたいという思いもあります。

また、「由紀さおり・安田祥子」こどもの歌を考える会「ソレアド」が〇七年に発足しました。ファンクラブ的な要素もありますが、童謡を歌う会が全国各地にたくさんありますから、そういう方たちとの連携をとりたい。お年寄りや子どもたちに歌を聴いてもらおうと、とても目が輝くんですが、私たちがすべてのところに歌いに行くことは残念ながらできません。歌を伝えることの裾野を広げていくために、皆さんの力をお借りしようと思ってきました。日本の歌の美しさ、温かさを伝える活動を息長く続けていきたいですね。

安田音楽事務所公式サイト
<http://www.yuki-yasuda.com/>

「学力調査」

学力調査と その活用



岐阜大学教授
北 俊夫

文部科学省は、平成十九年四月二十四日に「全国学力・学習状況調査」を実施し、十月二四日に結果を公表した。本稿では、調査の目的と内容を改めて整理するとともに、調査結果の概要を紹介し、教育委員会や学校における結果の活用方法について解説する。

学力調査の目的・対象・内容

一部に「学力テスト」などと言われているが、調査の正式名称は「全国学力・学習状況調査」である。調査の目的は次の二つである。

- ・全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育の結果を検証し、改善を図る。

・各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において、自らの教育の結果を把握し、改善を図る。

調査は、小学校第六学年と中学校第三学年を対象に、約二二二万人の児童生徒が参加した。これは、調査に参加しなかった愛知県犬山市の一四校を除くすべての国公立と、約六割の私立を合わせた数字である。犬山市が実施に加わらなかったのは、市が独自に学力調査を行っていること、学校や子どもたちに競争心を煽ることになるなどの理由による。

調査の内容は、国語と算数・数学の「教科に関する調査（学力調査）」と、児童生徒と学校に対して行われた「生活環境や学習環境等に関する質問紙調査」の二つである。

学力調査は、AとBの二種類の問題から構成された。「問題A」は、身につけておかなければ後の学年等の学習に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などの習得状況をみる問題、「問題B」は、知識や技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な問題解決のための構想を立て、実践し、評価・改善する力などの活用能力をみる問題であった。

生活環境や学習環境等に関する質問紙調査は、児童生徒と学校を対象に実施された。児童生徒を対象にした調査では、学習意欲、学習方法、学習環境、生活等に関する内容が取

り上げられた。学校に対しては、指導方法に関する取り組みや人的・物的な教育条件の整備の状況、児童生徒の体力・運動能力の状況等に関する内容が調査された。

調査結果の概要

調査の目的は、結果をこれからの教育や施策に反映させることにある。全国レベルの結果と、自らの市区町村や学校のデータを関係づけ、どこに課題があるのかを明確にし、改善策を検討する。

学力調査の問題Aの平均正答率は、小学校の国語、算数、中学校の国語において、学習内容をおおむね理解している結果となった。中学校の数学は、基礎的・基本的な知識や技能をさらに確実に身につける必要があること

●問題ごとの全国平均正答率とその比較

	問題A	問題B	A-B
小学校 国語	81.7	63.0	18.7
小学校 算数	82.1	63.6	18.5
中学校 国語	82.2	72.0	10.2
中学校 数学	72.8	61.2	11.6

●問題Bにおける平均正答率の低い問題例

教科・校種		問題例	平均正答率(%)
国語	小学校	古紙の再生利用が重要な課題となってきた理由を書く。	45.7
	中学校	中学生の広告カードと、店員が作成した広告カードを比較し、違いを説明する。	43.4
算数	小学校	面積が広いほうの公園を答え、その理由を説明する。	18.2
		どちらの曜日がいくら安くなるかを求める式と答えを書く。	29.5
数学	中学校	時間と水温の関係が一次関数であることが分かるグラフの特徴を説明する。	32.1
		水温が80℃になる時間を求める方法を説明する。	40.2



が課題になった。問題Bは、問題Aと比べて平均正答率が低く、習得した知識や技能の活用力に課題がある。特に文章で答える記述式の問題の正答率が低い。書く力、考える力に課題がある。今後各教科において、言語活動を充実させるとともに、思考力や表現力の育成を重視する必要がある。

全般的な傾向として、地域の規模（大都市、中核市、その他の市、町村、へき地）ごとの状況に大きな差は見られず、一九六〇年代の学力テストの結果と比べると、大きく改善されたことがうかがえる。平均正答率の高い傾向を示した学校は、児童生徒が「熱意をもって勉強している」「授業中の私語が少なく、落ち着いている」「礼儀正しい」と思っていることなどが明らかになった。

調査結果の詳細については、すでに「調査結果報告」などにとりまとめられ公表されているので、それらに委ねたい。

調査結果の活用

学力・学習状況調査の実施は、結果が有効に活用され、子どもの学力向上と生活習慣の改善に結びついてはじめて意味をもつ。

教育委員会は、結果をこれからの教育施策にどのように反映させるかが問われる。学力調査の結果を分析する検証改善委員会を立ち上げて、域内の結果を分析・検討する。各学

校に対して指導の充実改善を求めるだけでなく、人事や予算面などで必要な施策や支援を行う。結果が望ましくなかった学校に対しては、人的、物的な支援を施すようにする。

教育委員会は、保護者や地域住民に対して結果についての説明責任を果たすことが求められる。市区町村における公立学校全体の結果を公表するかどうか。どのように公表するかはそれぞれに委ねられている。学校の序列化を意識させ、いたずらに競争心をあおることがないように十分な配慮が必要である。

各学校においても、調査結果を分析・検討し、日々の指導上の問題点を明らかにし、これからの授業改善、指導力向上の具体的方策について協議する。その際、学力調査の結果と生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査の結果との相関関係も分析する。

保護者には、保護者会や個人面談、PTAなどの会議、学校通信などで、調査結果に対する学校としての受けとめ方とともに、これからの対応策について具体的かつ現実的に説明する。子どもには、学級での指導や個人面談などを通じて、どこに努力すべき課題があるのかを分かりやすく説明する。子どもたちが自信や意欲を失うことがないように、学習や生活に対する目標やめあてを具体的に示し、やる気と自信をもたせるようにする。

「中教審『審議のまとめ』」

学習指導要領の改訂の方向性と今後の課題



国立教育政策研究所
初等中等教育研究部長
工藤 文三

中教審の「審議のまとめ」にみる 学習指導要領改訂の方向性

平成十九年十一月に「教育課程部会におけるこれまでの審議のまとめ」が公表され、今後の学習指導要領改訂の概略が明らかにされた。改訂の方向性は次の5点にある。

- ① 「生きる力」の理念の再定義
- ② 基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の重視
- ③ 国語、算数・数学、理科等のいわゆる基本教科の授業時数の増加と指導内容の充実
- ④ 教育課程の多様性から共通性の重視
- ⑤ 教師の指導性と児童生徒の自発性・自主性とのバランスの回復

今後は平成二十年一月に最終答申、平成十九年度内の学習指導要領の告示が予定されている。平成二十年度以降は、新学習指導要領の趣旨の普及と移行措置への対応が各学校の課題になる。

以下では、教育課程編成の理念や学力観、教育課程の枠組みを中心に概観してみたい。

「生きる力」の再定義

「審議のまとめ」では教育課程の理念として「生きる力」の継続を掲げたが、この理念は現行の学習指導要領の理念として、平成八年の中央教育審議会で提言されたものである。

今回の改訂では、この「生きる力」の理念を引き継ぐとともに、その後の時代や社会の変化を踏まえて内容を再解釈している。解釈の視点として次の3点を挙げている。

① 知識基盤社会といわれる社会の構造変化の中で、課題解決や思考力、判断力等が求められること。

② 国際的な学力政策への対応である。OECDが提起したこれからの社会に求められる主要能力（キーコンピテンシー）の考え方や「生きる力」に共通性があることである。このキーコンピテンシーは二〇〇〇年から実施されているPIISA調査の枠組みとなっている。

③ 教育基本法における教育の目標や学校教育法第30条2項（第49条等）における基礎的な知識・技能の習得等の要請も「生きる力」と同一の視点に立つものである。

このように現行の学習指導要領の理念であった「生きる力」は、その後の時代と社会の変化に対応する形で、新しい意義付けが与えられることとなった。

教育基本法、学校教育法等の改正を受けた改訂

今回の改訂のこれまでにない特色は、教育基本法や学校教育法等の上位法の改正が行われたことである。中でも学校教育法第30条2項（第49条等）に次のように、学力及び学習指導についての考え方が示されたことの意味は大きい。

「②前項の場合においては、生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。」（傍線筆者）
ここには、①基礎的な知識及び技能を習得させること、②それらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力を育てること、③主体的に学習に

●小・中学校の標準授業時数(案) (文部科学省「『審議のまとめ』パンフレット』より)

①小学校

	国語	社会	算数	理科	生活	音楽	図画工作	家庭	体育	道徳	特別活動	総合的な学習の時間	外国語活動(仮称)	総授業時数
第1学年	306(9) +34	—	136(4) +22	—	102(3) 0	68(2) 0	68(2) 0	—	102(3) +12	34(1) 0	34(1) 0	—	—	850(25) +68
第2学年	315(9) +35	—	175(5) +20	—	105(3) 0	70(2) 0	70(2) 0	—	105(3) +15	35(1) 0	35(1) 0	—	—	910(26) +70
第3学年	245(7) +10	70(2) 0	175(5) +25	90(2.6) +20	—	60(1.7) 0	60(1.7) 0	—	105(3) +15	35(1) 0	35(1) 0	70(2) -35	—	945(27) +35
第4学年	245(7) +10	90(2.6) +5	175(5) +25	105(3) +15	—	60(1.7) 0	60(1.7) 0	—	105(3) +15	35(1) 0	35(1) 0	70(2) -35	—	980(28) +35
第5学年	175(5) -5	100(2.9) +10	175(5) +25	105(3) +10	—	50(1.4) 0	50(1.4) 0	60(1.7) 0	90(2.6) 0	35(1) 0	35(1) 0	70(2) -40	35(1) +35	980(28) +35
第6学年	175(5) 0	105(3) +5	175(5) +25	105(3) +10	—	50(1.4) 0	50(1.4) 0	55(1.6) 0	90(2.6) 0	35(1) 0	35(1) 0	70(2) -40	35(1) +35	980(28) +35
合計	1461 +84	365 +20	1011 +142	405 +55	207 0	358 0	358 0	115 0	597 +57	209 0	209 0	280 -150	70 +70	5645 +278

②中学校

	国語	社会	数学	理科	音楽	美術	保健体育	技術・家庭	外国語	道徳	特別活動	選択教科等	総合的な学習の時間*	総授業時数
第1学年	140(4) 0	105(3) 0	140(4) +35	105(3) 0	45(1.3) 0	45(1.3) 0	105(3) +15	70(2) 0	140(4) +35	35(1) 0	35(1) 0	— 0~30	50(1.4) -20~-50	1015(29) +35
第2学年	140(4) +35	105(3) 0	105(3) 0	140(4) +35	35(1) 0	35(1) 0	105(3) +15	70(2) 0	140(4) +35	35(1) 0	35(1) 0	— -50~-85	70(2) 0~-35	1015(29) +35
第3学年	105(3) 0	140(4) +55	140(4) +35	140(4) +60	35(1) 0	35(1) 0	105(3) +15	35(1) 0	140(4) +35	35(1) 0	35(1) 0	— -105~-165	70(2) 0~-60	1015(29) +35
合計	385 +35	350 +55	385 +70	385 +95	115 0	115 0	315 +45	175 0	420 +105	105 0	105 0	— -155~-280	190 -20~-145	3045 +105

※改訂案における選択教科等の扱いについては、第2・3学年において総合的な学習の時間の一部を充て得るとすることについて引き続き検討
 ※上段は標準授業時数の改訂案、()内は過当たりのコマ数、下段は現行からの増減

取り組む態度を養うこと、の3点が示されている。これらの内容が、学校教育法という法律に規定されたことは、これらがより普遍性のある学力とされたことを意味する。

このことを踏まえ、今回の改訂では、基礎的・基本的な知識・技能の習得、及び思考力・判断力・表現力の育成を重視する内容となっている。特に基礎的・基本的な知識・技能の習得については、発達や学年の段階を重視した指導や、学習の基礎として重要な内容を「重要指導事項例」として示すことが提言されており注目される。

教育課程の枠組みの改善

(1) 小学校の教育課程と配当時数

小学校の場合、現行の国語から体育までの9教科と道徳、特別活動、総合的な学習の時間に加えて、新しく「外国語活動」が追加されることになった。外国語活動は教科としての位置づけとしないことが明確にされた。

授業時数については、大きく次の3点を内容とする提言がなされた。

- ① 低学年では週2単位時間、中・高学年では週1単位時間、授業時数を増加する。
- ② 中・高学年における総合的な学習の時間の授業時数を、35〜40単位時間減じる。
- ③ ①、②で増加した授業時数を、国語、社会、算数、理科、体育、外国語活動に充てる。

結果として、上段の表に示したように各学年とも過当たり1〜2単位時間授業時数が増加することとなった。

(2) 中学校の教育課程と配当時数

中学校の教育課程は、現行学習指導要領では、必修教科と選択教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間で構成されており、変更はない。

授業時数については、大きく次の3点を内容とする提言がなされた。

- ① 各学年を通じて、授業時数を週1単位時間増加すること。この結果、過当たり授業時数は29単位時間となった。
- ② 選択教科と総合的な学習の時間の授業時数を縮減すること。
- ③ 国語、数学、理科等のいわゆる基本教科を中心に授業時数を増加すること。

このように中学校の教育課程は、生徒が選択して学習する余地が小さくなり、学習内容の共通性が高まることとなった。

今回の改訂は、既に用いられてきた「確かな学力」の実質化を図ることをねらいとしている。全国学力・学習状況調査や国際的な学力調査の結果を活用できる環境も整っており、今後は授業改善に基礎をおいた学校改善の取り組みが求められる。

世界 きょういく 見聞録



Vol.2 FROM GERMANY



世界には、さまざまな学びのプログラムやプロセスがあります。今回は産官学が連携する「デュアルシステム」の老家、ドイツの職業教育をご紹介します。

職業意識を高める ドイツのキャリア教育

日本でも2004年、「専門高校等における実務・教育連結型人材育成システム（日本版デュアルシステム）」推進事業がスタートしました。「デュアル」とはドイツ語で「二つの」を意味します。企業での実習と学校等の講義等の二つを組み合わせ、職業能力・知識の習得を図ろうとする制度です。



▲総合制学校の授業風景

玉川大学教職大学院準備委員会准教授
坂野 慎二

早期に職業決定を行うドイツ

ドイツの教育・雇用システムの特色は、中学校段階終了後（9-10学年）に進路が決定することである。中学校段階を終えると、青少年の6割程度が、定時制職業学校に通学しながら企業で特定の職種のための職業訓練を行う「デュアルシステム（二元制度）」へと進む。つまり、青少年は15-16才で将来の職業を選択し、職業教育・訓練を開始する。日本における高校卒業者のおよそ7割が大学や専門学校等に進学し、就職するものが少数派であることと比較すると、ドイツの進路決定が早い時期に行われていることが理解できよう。

表1 ヘッセン州における労働科の概要

学年段階	学年のテーマ	関連テーマ
10	労働と経済	(11) 経済システムの中の企業体 (10) 地域経済の構造と発達
9	労働と職業	(9) 評価、成績と収入 (8) 職業選択、就職計画と応募 (7) 企業内実習
8	労働と技術	(6) 職場でのコンピュータ (5) 人間にふさわしい労働 (4) 工具と機械
7	生活環境の中の労働	(3) 売買 (2) 労働と協働の形態 (1) 労働と人間(個々)

「就社」ではなく「就職」のための職業準備教育

ドイツでは、1970年代に職業準備教育が普及した。その対象となるのは、卒業後に主にデュアルシステムに進む基幹学校や実科学校の7-10年生で、大学進学を目的とするギムナジウム進学者は一般に対象から除かれる。ドイツでは16の州ごとに教育政策が異なるが、職業準備教育が「労働科」のように独立した科目で行われる州と、家庭科や技術科などの幾つかの科目に分けて行われる州がある。

職業準備教育の内容は、①労働者として必要とされる基礎知識を獲得し、②多様な職種を知り、③その中から自分に適した職種を選択し、④職業訓練の場を自分で確保していくことを目的としている。(表1)

具体的には、まず、職業を幾つかの領域に区分し、自分がどの職業領域に関心があるのか、そこではどのような職種があるのかを知る。そこでは日本のハローワークにあたる「職業情報センター」の職員が学校を訪問し、職業領域とさまざまな職種について説明する。その上で、生徒自身が職業情報センターを訪問し、興味関心のある職種を絞り込んでいく。卒業年度の前年度（10年で卒業ならば9年）には職場体験を行うが、体験事業所は生徒自身が見つけてくる。準備がすべて学校まかせになっている日本の職場体験などとはその意味合いが異なる。学校側は職場体験のための準備教育を行うとともに、労働

表2 デュアルシステムにおける学歴と職業訓練領域の関係
(各領域に占める学校修了者の割合(%))

	基幹学校修了者	実科学校修了者	ギムナジウム修了者
工業・商業	25.3	41.6	23.0
手工業	47.3	31.1	5.0
自由業	16.3	57.1	20.7
公務員	4.7	58.5	31.8
農業	34.2	32.6	9.2
家政	32.2	8.1	0.8
水産	13.5	49.3	31.9
全領域	30.8	39.6	17.3

者として必要な知識を教授していく。

ヘッセン州では8学年と9学年の2度の職場体験を行う。1回目の職場体験は、いわば「お試し」体験であり、やってみたい職種（例えばパン屋さんやお菓子屋さん）を選択する生徒が多いようだ。2回目の職場体験は、自分の将来の職業選択につながる事業所を懸命に探す。何故ならば、そこでの働きぶりが評価され、デュアルシステムの職業訓練企業として受け入れてもらえる場合もあるからなのである。職場体験の事業所探しは、まさに就職活動の第一歩である。

就職としてのデュアルシステム

卒業する年度には、デュアルシステムで訓練を受け入れてくれる企業を、生徒自身が職業情報センターに通って探す。しかし近年は、希望する職種の訓練を提供する企業を見つけることが難しくなっている。企業が提供する職業訓練席の数が減少傾向にあるとともに、ギムナジウム等の生徒もデュアルシステムによる職業訓練を受ける傾向があるためである。銀行や保険業といった人気のある職種では、訓練席の6割以上がギムナジウム卒業生によって占められてしまう。基幹学校の生徒は、比較的訓練席の数に余裕のある理美容師やパン職人、販売員等の職種への変更を余儀なくされる場合も少なくない。職業訓練席を見つけるにも、学歴が大きな影響を与えているといえよう。(表2)

企業における訓練席を見つけられなければ、州等が提供している特別な訓練プログラムに通い、翌年に再度訓練を提供する企業を探してデュアルシステムによる訓練を受けることになる。訓練企業を見つけることは、まさに「第一の労働市場」なのであ

る。こうした諸般の事情から、デュアルシステムによる職業訓練を開始する者の平均年齢は19才ほどになっている。(表3)

デュアルシステムでは、週2日職業学校に通い、週3日企業における訓練を受ける。訓練期間は3年程度であるが、途中で訓練をやめてしまう者も4人に1人くらいの割合になる。費用は原則として企業が負担し、訓練に対する手当を受け取る。

デュアルシステムによる職業訓練は、会議所等が実施する職業資格試験で修了する。合格率は、職種により異なるが、平均して9割程度である。

職業訓練から就職へ

デュアルシステムによる職業訓練を修了すると、若者たちは資格を持った専門労働者として、あるいは職人としての雇用口を探す。これが「第二の労働市場」である。職業訓練を受けた企業の評価が高ければ、その企業にそのまま就職することも少なくない。大企業ほどこうした傾向が強い。一方、職業訓練を受けた企業にそのまま就職できない場合、改めて採用を求めている企業を探すことになる。そのまま訓練企業に就職した者の割合は、旧西ドイツ地域で55.0%、旧東ドイツ地域で37.4%であった(2005年)。中小企業ではその割合が低く、大企業では高い(旧西ドイツ地域で68.0%)。

まとめ

ドイツでは早期に職種を選択して職業訓練を始める。そのため職業準備教育も第7学年あたりから始まる。その際、職業情報センター(日本のハローワーク)職員と密接に連携がとられている。また、職場体験場所も自分で確保する等、生徒の主体性を重視しているのが特徴といえよう。☺

表3 職業訓練の開始平均年齢(才)

年	平均年齢		
	男性	女性	全体
1970	16.8	16.4	16.6
1980	17.6	17.5	17.6
1990	19.0	19.0	19.0
2000	19.0	19.1	19.1
2005	19.5	19.6	19.5

●書籍紹介

『キャリア教育と就業支援—フリーター・ニート対策の国際比較』

小杉礼子・堀有喜衣 編

勁草書房 2006年2月 2,415円(税込)

次の世代がより生きやすくなる仕組みをどう作るのか。イギリス、アメリカ、ドイツ、スウェーデン、日本の若者政策を紹介。

●実践事例

全国で唯一、デュアルシステム科を持つ高校。「東京版デュアルシステム」を実施。

東京都立六郷工科高等学校

<http://www.rokugokoka-h.metro.tokyo.jp/>



展示の説明をする永澤さんと島田さん。使い終わった魚網はエコバッグに変身。発案者は漁船「勇精丸」の田村精一さん。資料館ではこんな意外なことも学べる。

地球となかよし
トピックス

千葉県銚子市
外川ミニ郷土資料館

郷土を知り、郷土に親しむ

二〇〇七年三月、銚子電鉄の終着駅、外川駅そばに「外川ミニ郷土資料館」がオープンしました。昔からの漁具や民具、希少な貝の標本、古い写真や絵などが間口三間の小さなスペースにとりこめられ、来館者を迎えます。開館後、半年以上経った今でも市内外からの来場者は月に千人を超え、外川の町の「顔」となっています。

■皆に外川のことを知ってほしい

「外川ミニ郷土資料館」の館主を務めるのは、外川で代々水産問屋を営む島田政典さん。開館のきっかけは、亡くなった先代が「外川の皆のおかげで仕事が繁盛している。いつか恩返しを」と言っていたことを、現在、館長として頑張っている母の泰枝さんが思い出したことだ。「地元のためになる施設をつくらう」と、改築で取り壊す予定の自宅を改装。館主の恩師である元小学校教諭の郷土史研究家・永澤謹吾さんや、貝化



小学生の調べ学習の資料

石研究家の渡辺富夫さんの所蔵する多くの貴重な資料を皆に見てもらおう資料館を計画した。

すると、話を聞きつけた地元の人々が、次々に自宅に眠る古い漁具や大漁旗、反物、絵画や写真などを持ち込んだのだ。当初の予想をはるかに超える充実した展示となった。

■資料館はみんなでつくる！

立派な反物が持ち込まれ、どのように展示しようか試行錯誤していたときのこと。資料館前を通りがかった老婦人が反物を見つけ、「私が縫っ



▲下校中の銚子市立清水小学校の子どもたち。「銚電はぼくたちにとってなくてはならないもの」
 ▲資料館開館のもう一つのきっかけは、小学生の通学の足でもある銚子電鉄の支援。「ぜひ外川駅まで銚電で来て！」



「万祝」と港の写真。最近の港の写真を展示したところ「同じ場所・アングルで撮ったものが家にある！」と古い写真が持ち込まれた



「ぬれ煎餅」で話題になったローカル鉄道、銚子電鉄。頑張れ地元の足銚電！地元以外の来館者からの寄贈品も多い



地元の小学生がつくった壁新聞

永澤さんはある日、通りがかった

■「ものつくりちゃん、まじぶー」

てきてあげる」と申し出てくれた。徹夜で漁師の晴れ着「万祝」に縫い上げてくれ、資料館を鮮やかに彩ったのだ。さらに、その「万祝」を見た近所の人が、「うちにはこれの冬物がある」と、綿入りのものを持ち込み、また華やかさが増した。現在も、いろいろな分野の資料が次から次に持ち込まれている。その一つ一つが大切に展示され、来館者を楽しませているのである。資料館では、永澤さんと館長ら、郷土を深く愛するスタッフが展示品や銚子・外川の歴史を詳しく説明してくれる。小中学校の課外授業でも利用され、子どもたちがスタッフの話に耳を傾ける。その後、放課後などにふらっと立ち寄るようになる子どもも多いそうだ。子どもたちは自分で資料を探し、わからないことはスタッフに熱心に尋ねる。そうして調べ学習を行い、学んだことをまとめたものも資料館に寄贈されている。「大学生でもできないのでは」と来館者も感心するべきばえだ。

おじいさんにお礼を言われたという。「うちの孫がここで教えてもらった外川や漁の話をしてくれたんだ。おらも説明してやったら眼を輝かせて。じいちゃんすごいって、尊敬されちゃったよ。ありがとう！」

永澤さんはこう言う。「いろんなところで親子のつながりが生まれたり、コミュニケーションがとれたり。学校で教わる知識ばかりではなく、体験談で勉強ができるのがこの資料館。家族の心のつながりや町を大事にする心、そういう気持ちのきっかけになればうれしいですね。」

資料館の展示を通して、人々が「おらの住むところはすごい町だったんだ」と気づき、町への誇りや愛着が増すならばとてもうれしい、と永澤さん。館長の島田さんは「漁師を継ぐ人も少なくなっているけれど、地元のこと、漁のことなどに興味を持って、若い人が継いでくれると銚子にもぎやかになるかなあ」とほほえんだ。

▼外川三郷土資料館
 開館時間 10時30分～16時30分
 入館料 無料 不定休
<http://www.tokawa.jp/>
 電話は銚子市観光協会
 0479(22)1544

愛知県

人間の生き方を問い続ける社会科学習

◆ 名古屋市立富士中学校校長

浅井 富士雄

本校は名古屋市の中心に位置し、学区は都心の近代的な建造物と江戸時代からの古い街並みが同居する文化的な地域である。昨年創立60周年を迎え、「上品で教養高く、強い責任感のある活動的な人間になる」という校風のもと、歴史と伝統に支えられた落ちついた学習環境が整っている。

今年度より、「学び合い、高め合うことができる生徒の育成～つながり、かかわり合う活動を通して～」を学校努力点のテーマとして掲げ、物事を多面的に考える力、自ら考え解決していこうとする力、他と協力しながら粘り強く課題を追究していく力を伸長させたいと考え、授業研究に取り組んでいる。

特に、社会科は来年、全国中学校社会科教育研究会名古屋大会での地理的分野の授業会場という発表の場をいただいた。現在、大会テーマである「人間の生き方を問い続ける社会科学習 ～『共創』—共生へのキーワード～」の具現化をめざし、学校に隣接する栄地区にあるテレビ塔の「2011年問題」を取り上げたり、地球温暖化防止への「アドバンスド京都議定書」を考えさせたりするなど、地域や社会が直面している問題を取り上げ教材化を進めている。また、「考える」「とらえる」

「問い直す」「認め合う」の四つの場を学習過程に位置づけた授業を構成している。

子どもたちは授業の中で、一人一人の多様な価値観を認め合い、問題の解決に向けて友達とともに考えていこうとする姿を見せるようになってきた。今後も、さらなる手だてを工夫し、社会を主体的に切り開き、自分たちの考えや行動が社会の発展にかかわっていることを認識しながら、他者と力を合わせ、よりよい社会の実現に向けて努力し続ける子どもを育てていきたい。



INFORMATION

北から

全国各地のさまざまな取り組みを紹介します。

を豊かにできるのではないかと考えたからです。そしてその豊かな人間関係が子どもの学力向上にもつながると考えました。

問題的行動を起こしやすかったA児が外から学級へ戻ってきた時に、教師の助言を得て級友が言った「お帰り」の一言がA児の集団所属感を高め行動を変容させるなど、本実践は子どもの変容の姿で成果を見出そうとするもので、数値的には表れにくい取り組みです。

全国の先行研究には到底及びませんが、今後は家庭や地域とともに実践を重ねていきたいと思っています。



長崎県

関係力を育てる

◆ 佐世保市立春日小学校校長

篠崎 信彦

本校では「関係力」というテーマで、この2年近くささやかな教育実践を重ねてきました。「関係力」という言葉には子どもたちに豊かな人間関係を築かせたいという思いと願いが込められています。

この2年間の取り組みは、佐世保市教委指定の「授業改善」を図ることが第一の目標ですが、私たちはその目標を達成するための手段として「関係力」をテーマに掲げて各教科等で実践的に取り組むことにしました。

取り組みの内容は、対人関係を円滑にするためのソーシャルスキルトレーニング（さくらスキル）と自己の在り方を見つめるワークショップ（さくらワーク）と、それらを生かした授業づくりです。

利便性が高まる一方で、人間関係の希薄化の進行や人間性を喪失した事件等が続発している現代社会を生きる子どもたちに、学校教育だけで「関係力」を身に付けさせることは難しいと思います。

しかしながら、思いと願いを持って取り組んだのは、「子どもへの働きかけ」という教師の専門職としての力を学校教育のさまざまな領域で実践的に見つめ直し、「働きかけ」を積み重ねていくことで、子ども相互の関係

おらが地域の「はだしの学校」

「はだしの教育がもたらしたもの」

◆ 名寄市立中名寄小学校校長 丸山 優子

自分の体や健康についての自己管理能力が培われること、常に危険物や環境美化にも心を配り、安全・清潔な環境づくりへの態度が養われること、さらには、いたわりの心をも育まれることにある。

「はだしの教育」は、確実にその成果をもたらしてくれた。木目の床面は厳冬期でも温もりを感じさせ、子供たちは居間に集う家族のように和やかな気持ちで学習に取り組み、毎朝の青竹踏みは皮膚の刺激感覚を通して体調を知るなど健康な生活を営む意識づけに役立っている。砂埃や画鋸1個が落ちていても健康や安全を損ねることを意識し、子供たちは誠心誠意清掃活動に取り組む。そのことから、相手を思いやり、校舎を大切にすることも育まれる。まさに「自ら学び 心豊かにたくましく生きる力」だと実感している。



「はだしの教育」20年の節目を迎えた本校は、北北海道の長流天塩川が形成する名寄盆地の中央・名寄市の東端に位置する小さな学校である。この地に開墾の鋤が入れられて3年後の明治37年、人々の多大な労働奉仕により校舎が建築され、中名寄の教育はスタートした。日本海気象の影響を受け、夏冬の寒暖差が60度にも及ぶ厳しい気象条件の中、先人は生活の土台を築き、農業を拓き、教育の礎を培ったのである。以来、歴史の流れの中で児童数の激減という窮地にあっても、人々の「地域の学校に寄せる期待」は揺らぐことなく、「環境に恵まれた北の大地に21世紀を託す子弟の教育の場・学校の改築を」との強い願いのもと、昭和62年外断熱工法の現在の校舎が完成した。

翌年“生き生きと心身の健康づくりに励む子供の育成”を目指し、「はだしの教育」がスタートした。はだしの教育の特色は、「冷たさ」「痛さ」を肌で体験することを通し、

学力向上の基盤づくり

「基礎基本の定着・学習意欲の向上を目指して」

◆ 八潮市立八幡中学校校長 一之瀬 一彦

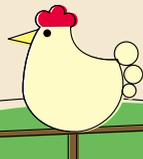
学習意欲の向上を目指している。また、基礎学力テストの結果や考察などを「学力向上通信」により保護者へ報告するとともに、ホームページ上で公開し、保護者の学習に対する意識の高揚も図っている。

さらに、本校では、生きる力の知の側面である確かな学力をはぐくむのみならず、豊かな心の育成に向け道徳教育にも力を入れている。特に、これまでの生活の中で心に残った言葉や勇気づけられた言葉を、その言葉にまつわるエピソードとともに全生徒から募集し、卓上日めくりカレンダーとしてまとめた本校独自の「心のカレンダー」を作成して配布している。

今後も、“生徒が中心 生徒のための 生徒に生きる”研究を实践し、生徒の「確かな学力」の育成に向け、さらに努力していきたいと考える。



南から



本校は、八潮市のほぼ中心部に位置し、創立30年を迎えた。平成17年度から3年間、文部科学省・埼玉県教育委員会より「学力向上拠点形成事業」の研究指定を受け、研究主題「確かな学力をはぐくむ学習指導の工夫」のもと実践研究に取り組んでいる。この取り組みは、個に応じたきめ細かな指導を行うとともに、家庭との連携をとって家庭学習の充実を図り、基礎基本の定着・学習意欲の向上を図ることを柱としている。

主な実践として、異なる教科教員が教室へ入り、授業の受け方指導を含めたチームティーチングや机間指導の充実による個に応じた指導を行っている。特に、「読む・書く・計算」の確実な定着を図ることは、確かな学力をはぐくむ根幹と考え、本年度、八幡中学校戦略目標と本校独自の問題集である八幡Basicを作成した。八幡Basicから出題する国・数・英の基礎学力テストを月1回実施し、80点以上の生徒に合格認定証を発行し、

5回目を迎えた「地球となかよし」メッセージ。2007年7月1日から9月30日までの募集期間に昨年度を超える約1,600点の作品が日本全国や海外から寄せられました。今回も、環境省、日本環境教育学会、日本環境協会、全国小中学校環境教育研究会、毎日新聞社、毎日小学生新聞から協賛・後援をいただきました。11月4日に行われた審査委員会では、特別賞7点、入選作18点が選ばれ、それぞれに賞状と副賞が、学校賞に選ばれた2校には賞状と記念の盾が贈られました。



地球となかよし
大賞



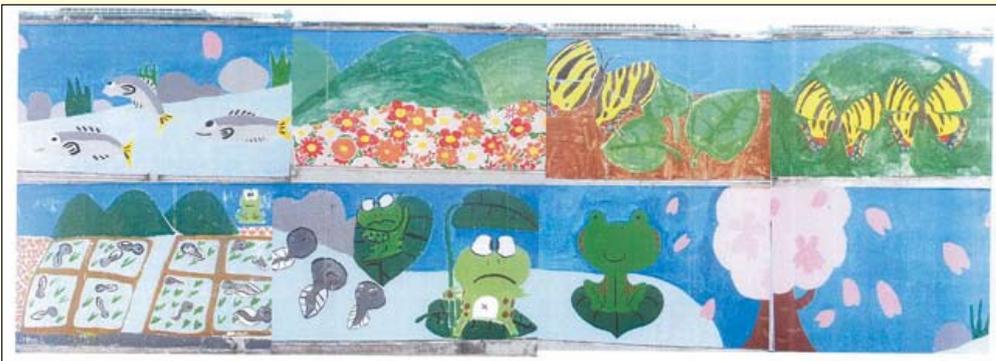
はだして遊べる地球が大好き

越湖 美月

東京都江戸川区立臨海小学校5年

私は、はだして遊ぶのが大好きです。土や草や川や海、ぐにゃっとしたりさらさらしたり、つめたかったり、温かかったり。考えてみると大きな地球で遊んでいるんだなと思います。特に近くの砂浜で、はだしになるのが大好きです。カニや貝とも遊びます。大きな地球とはだしの私。それに小さなカニ。みんな仲良く遊ぶのが大好きです。

評 砂浜をふみしめる足。その上をそっ気なくはいまわるカニ。すべてが一つに溶け込んだ地球が、ここにある。



環境大臣賞

ずっと友だちだよ

広島県世羅町立伊尾小学校 4年生7名

これは、プールの壁に描いた「伊尾の自然」です。私たちの町には自然がいっぱいあります。4月。桜が咲くころ、「春の女神」と呼ばれるギフチョウが見られます。観察できるのは、たったの2週間です。6月。芦田川にアユの稚魚を放流します。芦田川はアユが住めるきれいな川です。川で泳いでいるとアユが目の前を通り過ぎます。7月。ピオトープでダルマガエルが鳴き始めます。「ギュー、ギュー。」という鳴き声でとってもかわいいです。ギフチョウもダルマガエルも絶滅寸前の生物で地域の人といっしょに保護活動をしています。私たちが住んでいる伊尾には、たくさんの自然があっとうれしいです。この自然をこわさないようにながらばっていききたいです。

評 伊尾の四季の絵巻物。なんと楽しそうなチョウ、カエル、アユ、花や木。この自然を守るのは、私たちです。

毎日新聞社賞



ベニス市民の心意気

平杉 潤子

ロッテルダム日本人学校 中学2年

買い物途中のこの男性が中を見ているのは、洋服・本・玩具などが入っているリサイクルボックスである。いつでも好きな時に市民が、自由に不用品を出したり貰ったりできる。

私はこのシステムは大変画期的だと思った。

今、世界はゴミを出し過ぎている。実際大量のゴミを埋め立てる場所もなくなりつつある。

原因は私達だ。

私達は『いらぬ物=捨てる物』と解釈してしまう。そんな『常識』は変えていかなければならない。『いらぬ物=他の人がまだ使うかもしれない物』と、捨てる前に一度考える。これを『常識』にしていきたい。そうしないといつかこの世はゴミであふれてしまう。

ちょっとした努力が世の中を変えていく。

評 リサイクルボックスのアイデアに感服。それを見逃さなかったあなたの眼は、もっとすばらしい。

全国小中学校環境教育研究会賞



毛虫の気持ち

中澤 宏奎

福井県越前市 こどもエコクラブ「スマイル探偵団」中学2年

こんなに、小さくても地球上の一員さ。みてみて、おしゃれなボク。こんなにおしゃれを頑張っても、気づいてくれる人間は少ないんだ。この星には、人間たちが気づいていない沢山の仲間が生きているんだ。この星で一番、力も頭脳も持っている人間。この星を壊すのも人間、くやしけれど救えるのも人間だ。

だからこそ、もっとみんなの事を考えてよ！

ボク達には、どうしようもないんだ。きっと力を合わせれば、できるよ！ 心をつなげて…。君たちの行動で、ボク達の未来もそして人間たち自身の未来も

救えるんだよ！

賢い人間は気付き始めている。今なにをすべきかを。見て見ぬふりをしている人間も、ボク達を見つめて考え直して！

評 「賢い人間は気付き始めている。今何をすべきかを。」 強烈な一言です。だから、もっともっと賢くならよう。

日本環境学会賞



赤ちゃん

石田 基

富山県水見市立朝日丘小学校5年

これは、葉の上ののっていたかたつむりの赤ちゃんです。小さな小さな体を一生けん命動かしている赤ちゃんを見て生命ってすごいと思いました。そしてとっでもかわいいこの赤ちゃんをこれからものこして絶滅しないようにしていきたいと思いました。危険がたくさんある中で必死に生きている小さな命こそ守っていかねばいけなあとかんじました。だけど、実際にかん境を破かいしていつているのは人間です。ぼくたち人間です。このかわいい赤ちゃんのすみかをなくしているのも人間です。ぼくは、これ以上地球上から生物をなくしてはだめだと思っています。

こんなかわいい赤ちゃんが自由に生きられる世界になればいいな。

評 線の大海原をのんびり渡るカタツムリ。まぶしく輝いた地球の重話がここにある。あなたの心のように！

学校賞

愛知県
岡崎市立六名小学校

京都府
京都教育大学附属桃山小学校

◎審査委員 (敬称略)

- 有田 和正 東北福祉大学教授
- 尾崎 泰之 環境省環境教育推進室長補佐
- 角屋 重樹 広島大学教授
- 小澤紀美子 日本環境教育学会会長
東京学芸大学教授
- 児島 邦宏 東京学芸大学教授
- 岸 榮子 全国小中学校環境教育研究会会長
多摩市立東落合小学校校長
- 関 博至 毎日新聞社「教育と新聞」推進本部
編集委員
- 小林 一光 教育出版(株) 取締役社長

審査風景



審査員特別賞



小さないのちが生まれたよ

今井 帆風

広島県東広島市立河内小学校3年

わたしはてんとう虫の赤ちゃんをはじめで見ました。てんとう虫の赤ちゃんはとても小さくてあまり動きませんでした。

とても小さないのちが生まれました。

早く大きくなってほしいです。

小さな虫はいっしょうけんめい生きているなど思いました。小さな虫はいっしょうけんめい生きているのに人は、つぶしたりとったりして弱らせてしまうからこの写真をえらびました。

ずっと小さないのちを大切にしていきたいです。

評 ちた葉を食べ、土に戻しながら、命をふくらませる てんとう虫の赤ちゃん。指の先には、大きな自然！

毎日小学生新聞賞



ずっといっしょにしようね

吉原 愛実

広島県尾道市立高見小学校2年

わたしのおじいちゃんは3月からびょう気でおれました。わたしの大きなおじいちゃんです。いまは、つえでどうしています。車イスの時もあります。わたしは車イスをおす時に、こまった事があります。それは、だんさがあつたり、さがあつたりするのでとてもこまります。わたしは、だんさのないせかいができればいいなあ。と思います。それからおじいちゃんや体のふじゆうな人をへんな目で見ないようなやさしいあたたかい心のだんさもいせかいにできたらいいなあ。と 思ってこの作ひんを作りました。

評 おじいちゃんに、心の底からよりそっているあなたのやさしさ。心のだんさこそ、まずなくしたいものですね。



命のつまったしらかばの木

山本 心

北海道札幌市立琴似中央小学校 4年

わたしは一年間、学校の近くにあるしらかばの木を観察してきました。

夏、わたしがしらかばの木をよく見ていると、あることに気がつきました。一つ一つの葉の色がちがっていました。緑茶っぽい葉や明るい緑の葉、光が当たってキラキラしている葉、いろんな種類のしらかばの葉がありました。そこでわたしは、「一つの木にも、いっぱい命がつまっているんだなあ。」と思いました。



ぼく達の服は土がリサイクル

渋谷 勇樹

神奈川県平塚市立みずほ小学校 4年

ぼくの服は新しい服もあるけどお兄ちゃんのお下がりがったりします。そして、ぼくが着た後小さくなった服は年下の子にあげたりします。

かぶと虫やセミ、カニのぬげがらを見つけて生き物達の服は土にかえり、び生物に分解され植物の養分になる事を知りました。

ぼくらのまわりの物もみんなリサイクルできるといいのになあと思いました。



エコ俳句

中村 律

東京都文京区立誠之小学校 2年

エコバック

地きゆう うんめい

つめられて



水に浮かぶ森

西山 慧汰

台北市日本人学校(台北市日僑学校) 中学3年

インドネシアのある島で、僕は水に浮かぶ森を見た。それは水中に根を張る木、マングローブの森。日常では決して触れることのできない壮大な自然に僕はただ圧倒されていた。

その時さまざまなものを感じた。姿こそ見せなかったが、常に漂う生き物の気配。そして空から聞こえる鳥の鳴き声。「この森は彼らのものだ。」そう感じた。

人間はいつか、彼らからここを奪うのだろうか。自分たちの幸せのためにこの水に浮かぶ森を消すのだろうか。そして、その時彼らはどうなってしまうのだろうか。

僕はこの美しい森を彼らから奪うことを許さない。水に浮かぶマングローブの森は今日も、そしてずっと、彼らの住処だ。



降り注ぐ太陽の恵み

吉野 千尋

ロッテルダム日本人学校 中学1年

私はスペインで、大型のソーラーパネルがたくさん設置されている太陽光発電を見てとても感動しました。限りのある石油資源に頼り、地球温暖化などの環境問題に悩むよりも、もっともって太陽の恵みを活用し、温室効果ガス排出量の削減に貢献できたら良いのになあと思っています。

風力発電と共に地球にやさしいクリーンエネルギーが多く開発され、いつか地球にも人にも優しい暮らしが出来るようになることを願っています。



しぜんのちからが 100%

田中 湧也

香港日本人学校小学部香港校 1年

たいようのえねるぎーとかぜのちからがはつでんきにぶつかつてえねるぎーになります。



水洗トイレかバイオトイレか

山崎 飛龍

香港日本人学校小学部香港校 6年

ぼくは、水洗トイレかバイオトイレどちらがいいかと聞かれると、ぼくは、バイオトイレと答えます。

確かに、水洗トイレはすぐに流せて便利です。しかし、水洗トイレは水を使わないと流せません。反対にバイオトイレは、水を使いません。木屑と土を入れて一年たてば、いい肥料になります。

ぼくは、このことをみんなに教えて地球に優しくしてほしいと思います。



愛情を持って

青山 宝世

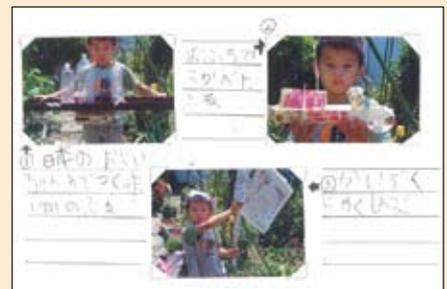
バラスト日本人学校 中学3年

このカメは、私の大事なペットである。このカメは、なぜか街中のテニスコートで拾ったのである。

このカメは、甲羅と腹が割れてとても汚れていたのである。

このカメは、空腹で、哀しくおびえながら、一人できつと何年も生きてきたのである。このカメがどこから来たのか、

どうやって生きてきたのか、何があったのか... やっと今年の夏、甲羅と腹の傷がふさがってきたけど、それを見るたびにいろいろ思う。



りさいくるは、たのしいよ

河端 省吾

テヘラン日本人学校 1年

日本には、おもちゃがたくさんあるけど、イランにはあまりないので、ぼくは、よくりさいくるおもちゃをつくりたい。

- ①ごみでつくる。
 - ②でんちをつかわない。
 - ③せかいにひとつ。
- だからたのしい。



祭りを通しての交流

下山 優美

群馬県前橋市立新田小学校 6年

私はこの前、子供会と自治会の合同のお祭りに参加しました。今年はお祭のおどりなどに積極的に参加し、大忙し。なかでも大変だったのは、「地蔵和讃」これは日本の昔からあるらしく、とても難しいです。ここで一つその和讃のうたを1番だけしようかします。

「賜命頂礼この村の工〜天神様がお社に工〜梅松桜を植え混せて工〜梅の小枝に鶯が工〜この村繁盛と言うて鳴くとよ南無阿弥陀」というたです。これをお地蔵様をもってやるので大変です。でも、お年寄りの方々に教えられてよくできました。このお祭りのおかげで、お年寄りとも仲良くなれました。地球と仲良くすれば人とも仲良くなれるみたいです。



おいしい 新米!

古川 智康

富山県富山市立光陽小学校 5年

田んぼの中はぬるぬるで、足が田んぼにつかまって、気づいた時には、泥の中。パンツの中までドードロド。洗濯しても、落ちません。腰も背中も痛くて、田植えはとっても疲れます。でも、あの時植えたあの苗が、おいしいお米になりました。やった〜!



温故知新

崎津 優誠

兵庫県姫路市立青山小学校 6年

機械なんか使わなくても自分の手で何でも作れるんだ!! 道具や機械に囲まれて生活してきたぼく達は、便利さと引きかえに失った物がたくさんある。しんどくて、時間がかかっても、ぼくは、自然を愛し自然と共に生きる大切さを、今日、手からそして、足から感じた。



みんな仲良くエコロジー

伊藤 梨奈

北海道 北海道教育大学附属旭川小学校 4年

私は、一学期に下水処理場と浄水場に見学に行きました。下水道を流れて来た汚水は、沈殿池にありました。この池は、にごっていて今にも臭いがただよって来そうでした。この汚れた水が私達の使った水だと教わりびっくりしました。そしてきれいに川に流すと知りました。

私達が飲んだり料理に使ったりお風呂に入ったりする水は、ここできれいにするためとてもたくさんの処理をしなければいけません。たくさんの人が働いている事もわかりました。

私は、少しでも汚い水をへらすために、「何かできないかなあ。」と思いました。姉は夏休みの宿題にエコたわしを作りました。これは、できるだけ洗剤を使わないで食器やお風呂を洗う物です。私もこれからエコたわしを使ってお手伝いをします。そして川や海がきれいな地球と仲良くしたいです。



琵琶湖サプライズ!!

久留原 美希

愛知県稲沢市 こどもエコクラブ「がんばる隊」中学1年

毎年海水浴に訪れている琵琶湖。2年前、おじいちゃんに買ってもらった水中眼鏡。水中に落としてしまった。あわてて大捜ししたけど、結局琵琶湖の水が濁っていて水中が何も見えず、見つからなかった。今年、新しい水中眼鏡で深いところに潜ってみたら、琵琶湖の底にたくさんの貝を見つけることができた。浅いところでは、自分の足を透き通った水の中に見ることができた。琵琶湖、驚くべき回復力!!



水筒が地球を救う!!

小形 聡司

神奈川県相模原市立清新中学校 2年

あなたが、1日に1本のペットボトルを買ったとします。あなたは、たった1本のペットボトルだと思いかもしれません。でも……1年間では、365本のペットボトルになります。水筒だったら1年間で1本です。

ペットボトル365本 = あなたの水筒1本 (年間)

あなたの水筒が地球の環境を救う「大切な1本」になるのです。



ぼっとな、ぼっとな

古川 惇皓

富山県富山市立光陽小学校 2年

ぼくは、水をきれいにするそうちを作りました。ペットボトルにすなを入れて、その上にジャリ、その上に小石を入れて、さいごにぬのを入れました。これにごった水を入れると、きれいな水が1てきずつぼっとな、ぼっとなとおちてきました。

よごれた水は、こうやって地めんの中できれいな水になっていると、おかあさんがいっていました。

ぼくは、地きゆうがきたなくなった水をおそうじしてくれているんだなと思いました。だからぼくも、じぶんによごしたものはじぶんできれいにしようと思います。



カエルの言葉

植西 美侑

京都府 立命館小学校 2年

5月に、田んぼで見つけた小さな命のかたまりが、たくさんのカエルに育って、元の田んぼに帰っていききました。

「おはよう。どんなものが食べたいの?」となかよくくらしていると、おたまじゃくしやカエルは、「ありがとう」とか「おいしいよ」「気をつけてね」と、聞こえない言葉で答えてくれたよ。「なかよし」というのは、「ありがとう」や「ごめんね」が心から言えて、おたがいを大切に思いやるお友達のことだと思います。花や草、虫や動物、風や雨は、人間より先に地球の聞こえない言葉を聞いて「地球というお友達が大変なんだよ」とうたえているよ。

人間も耳をすませて、自分ができることを考えてすぐ動かなくや。お友達を助けようよ。



すごいところに

石丸 哲朗

山口県岩国市立神東小学校 4年

おっとあぶない。さなぎをすごいところで作っているね。サーカスみたい。一びきはちゃんとひもに付いているのにもう一びきはあれれ。あんな細い糸でだじょうぶかなあ。今にも切れちゃいそう。一週間くらいたつとやっぱりきれちゃった。よし、ぼくにまかせて。ぬのガムテープで糸を作って助けてあげたよ。

一週間後、「あつ、成虫になってる。」ぼくがつないだ命大切にしてくね。

地球となかよし ゼミナール

子どもたちのメッセージに学ぶ

「地球となかよしメッセージ」応募作品を手がかりに、
教育にかかわるキーワードをクローズアップ。
今回は、06年・07年の応募作品から一つずつ紹介し、「食育」の意味について考えます。

「食育」 食育は、「人」と「自然」の橋渡し

子どもが生涯にわたっていきいきと暮らす力を身につけてゆくには、何よりも「食」が重要。そして「健全な食生活」を実践することができる人間を育てる「食育」の推進が必要。このような考え方に基づいた「食育基本法」が平成十七年に施行され、今、盛んに「食育」が叫ばれています。では、そもそも「健全な食生活」とはいつ、何を指しているのでしょうか？

今回紹介する二つの作品には、その答えがたくさん盛り込まれています。まず、双方に共通のテーマとして、「自然」と「共同作業（連携）」が挙げられます。伊藤あつしさんは川の「あゆ」、川畑結央さんは山の「くまざさ」と、それぞれ「自然」の中の「食」を題材にしていますね。そしてお二人とも、友達やお母さんとの「共同作業（連携）」をテーマにしています。実はこの「自然」と「連携」という二つのキーワードこそ、「健全な食生活」の根底にある、一番の基礎となるものです。

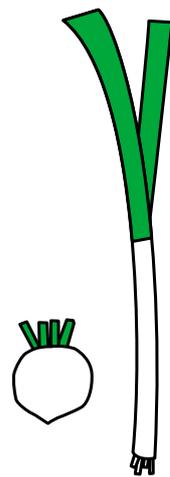
「健全な食生活」というと、一般的には栄養素的に「バランスの良い」、時間的に「規則正しい」

食生活、というように考えがちですが、「食」とはそんなに狭いものでもありません。食べ物は日光、空気、水、大地といった自然環境の中でつくられ、それらのパワーが凝集した、言うなれば「自然」そのものです。そしてそこで育まれた動植物の「命」をそっくり体内にとり入れて自分たちの命をつないでゆく。これが「食べる」ということです。

また、食べ物は自然の力だけでなく、生産、流通、加工、ごみの処理などにかかわる多くの人の連携をもって作られます。そしてそれかと一緒に食べることで栄養素のバランスが自然と整い、効率よ

く消化吸収が行われ、人と人との絆が深まり、健全な人間形成に役立ちます。このように「健全な食生活」とは自分の健康だけでなく、健全な人間関係、そして明日につながる健全な自然環境をつくることでもあるのです。

そのほか、伊藤あつしさんの作品には、アユを串にさして焼くという「調理」、そして「早く焼けないかな」と楽しみに待つ「心のプロセス（食欲）」、そして食べ終わった後の「あゆさんありがとう」と「命に感謝する心」など、川畑結央さんの作品には「郷土料理（文化の伝承）」を守る大切さや、熊笹の持つ「食品の機能」など



3人で力をあわせて

●伊藤あつし 3年

リバーサイドフェスティバルがありました。沼田川の名物は、あゆです。ぼくと、友だち2人であゆのつかみどりをしました。1回目に、ぼくたちは、ゆるゆるしていたのであゆを2ひきしか、とれませんでした。2回目は、みんなこつをつかんでどんどんとりました。2回目にとったあゆの数は、7ひきでした。とてもうれしかったです。次に、あゆをやきました。「早くやけないかな」と思いました。やけると、みんな「がぶり」とかぶりつきました。とてもおいしかったです。「あゆさんありがとう」あゆがすみ続けられる川を守ってみたいです。



お母さんといっしょ

●川畑結央 2年

わたしは夏休みに、おばあちゃんの家で「ささまき」を作りました。ささまきは、おばあちゃんが生まれた、ふくしまけん、あいつ地方のきょう土りょうりです。中はもち米で、形が三角形になるのでとてもかわいく、きなこをつけるとおいしいです。このささは、くまざさというしゅるいのささで、中のごはんをくさりにくくしてくれる力があるとお母さんが教えてくれました。おばあちゃんは、むかしは山にいっぱい生えていたけれど、さい近はなかなか見つからないと話してくれました。むかしはくまざさをかんそうさせて、くすりにしていたそうです。しぜんに生えている草やはっぱがくすりになるなんてすごいいいと思いました。

のポイントが散りばめられています。これらすべてが、「健全な食生活」を実践する上での大切な要素です。食育の題材は日常生活のあらゆるところに潜んでいます。大上段に構えてもうまくは行きません。まずは子どもにも、食べ物に、そして自然環境に愛情を持って接すること、それが「食育」の入り口です。🍴

女子栄養大学 生涯学習講師
たべもの教室「パツタクラブ」主宰
川畑輝子

子どもの学力格差



香山 リカ
(精神科医・帝塚山学院大学教授)

「子どもたちに基礎学力を」という話をよく聞く。学力調査により地域や学校によって「学力格差」があるようだ、ということが明らかになり、「日本の子どもの学力は均一かつかなり高い」との神話が崩れつつあるのだ。

しかし、よく考えると、全国で子どもたちの学力が一定であるはずはない。それに、そもそも「学力」とは何か、ということがはっきりしない。

診察室にいと、「生きる力」と「学力」にはあまり相関関係がないのでは、と思わされる場面が多い。たとえば、小学校以来、ずっと成績は中位以下、高校で「大学進学はとてもムリ」と言われたカスミさん。「軽度の発達障害があると思うので、医療機関を受診しては」と高校の先生にすすめられ、親といっしょに受診した。

「とりあえずカウンセリングに



イラスト ひらた ひさこ

通院してみましようか。来週は？」ときくと、「来週は忙しい」と言う。なかなか言いたがらなかったのだが、実はマンガを描いていて、来週のイベントまでに大作を仕上げなければならぬのだという。「どんなマンガ？」などとさらに聞き出してネットで調べてみると、カスミさんはあるグループでカリスマとまで言われるマンガ製作者だったのだ。

「大学に行くより、この能力を生かすほうがずっといいよ。バイトしながらマンガを描き続けられ？」と興奮を抑えきれずに言った私に、カスミさんは「みんな、勉強できなきゃダメ、マンガなんてくだらないと言うのに、ほめて

くれたおとなははじめて」とニコリ笑った。その後、カスミさんはマンガ関連の書店に好条件で就職しつつ、カリスマとしての腕をさらに磨いていった。

もちろん、これから先、カスミさんがマンガ一本で自立できるようになるかどうかは、わからない。しかし、カスミさんには学力以前の段階で自分を肯定してくれるおとなが必要だったのではないかと。

学力は大切だけど、あなたが自身がもっと大切。すばらしいあなたがもっとすばしくなるために、学力がきつと役に立つと思う。どんな場合も、この大前提を忘れてはならないはずだ。

こどもエコクラブ

は、環境省が応援する、こどもがだれでも参加できる環境活動クラブです。昨年度は、全国で4,819クラブ、137,532人のこどもたちが、自分たちのできる身近な環境活動（生きもの調査、リサイクル活動など環境に関することなら何でも）に取り組みました。



- ◆教育出版は、こどもエコクラブの活動を支援しています。
- ◆「地球となかよしメッセージ」入賞作品は教育出版ホームページで公開しています。
<http://www.kyoiku-shuppan.co.jp>

こどもエコクラブホームページ
<http://www.env.go.jp/kids/ecoclub/>



ほっとな 出会い

脳研究者
いけがや
池谷
裕二さん

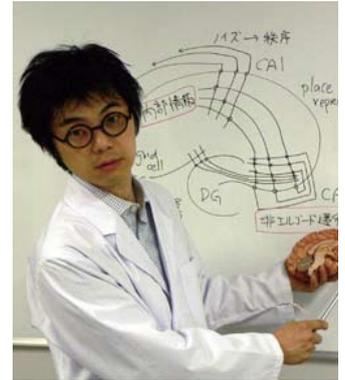
●ものは見方しだいで発見が生まれる

小学生のころ、九九や漢字を覚えていなくて、勉強はできないほうだったんです。でも、それ以外のところで「わかる」ということの楽しさはずっと感じていました。

父親は、ものの原理を教えることがすごく好きだったんです。水を見たら、ただ透明だなどと思うんじゃなくて、隅の方は表面張力といって盛り上がりつつあるでしょう、どうしてなのかとか、箸を水に入れたら曲がって見えるのはどうしてかとか。

例えば、何でコップは円柱なのか。星型ではまずいのか。持ちやすさだけならグリップの形のほうがよいわけだし、あるいは取っ手をつければ円じゃなくても持ちやすい。口当たりがいいとか、昔はろくろでつくったからというのもあるでしょう。それ以外に、物理的に大変重要な性質がある。同じ量を入れたときの表面積が一番狭くなるのが円なんです。表面積が広いと、冷たいものが温まりやすく、熱いものを入れたら冷めやすい。そういう別の次元の理由があるんです。どんなものを見てもその裏に原理というか、発見があるんだということを、ずっと親は教えてくれていたんですね。

そのせいか、九九のような丸暗記は嫌だった。分数の割り算は、ただ上下逆にして掛けると覚えればいいとか。でも、中学に進むと、原理を



1970年静岡県生まれ。東京大学大学院薬学系研究科准教授。たえず変化する脳の「可塑性」を研究し、成長、脳高次機能、神経疾患など、脳の変化に基づく事象を究明する。著書に『進化しすぎた脳—中学・高校生と語る大脳生理学の最前線』（祥伝社）『海馬—脳は疲れな』(新潮文庫)など。

考えて解くように導かれていた問題が多いわけ、そういうおもしろみを小学生のころから感じて、しだいに、勉強して「わかる」のが楽しい、となっていました。

●固定観念が可能性を減少させる

例えば、イチヨウの木を見て、大人は多分、イチヨウはオスとメスがあつて、メスの木だけギンナンがなると子どもに教えるでしょう。ここで、もう一歩深く教えてもいいのではないかと。イチヨウにはオス、メスの見分け方がありません。オスは枝分かれが少なく背が高くまっすぐ、メスは枝分かれが多くて横に広がって立つ。でも、オスがまっすぐだと覚えるだけでは、1カ月後には「どっちがまっすぐだったか」となるんです。人間の記憶とはそういうものなんですよ。

「裏」を知ると記憶に残るし、そこから先に広がります。オスが高くてまっすぐなのは、花粉を遠くまで風に乗せて飛ばさなければいけないからで、メスは子孫を残すためにギンナンをできるだけ遠くに落とす必要がある。そうすると枝を横にいっぱい伸ばしたほうが合理的だったんじゃないかということまで子どもたちに教えてあげると、固定観念でなく、やわらかく考えられるでしょう。そこからいろいろなることを考え、発見が生まれるんです。

当たり前と思うこと、決まりきったものから

一歩踏み込む。ふくらみのある教育とはそういうことではないかと思つてます。そうすると、いろいろな知識がなつていきます。固定観念から踏み出さないと、ただそこにあるものを覚えるだけというやり方は、創造性やアイデアを減じてしまう気がします。

●スモールステップアップが脳に喜びを与える

最近の子どもたちには夢がないとよく言われるけれど、大きな目標はあったほうがいい程度に考えて、期末テストはどうするかとか、小さな目標をたくさん持つのがいいと思います。小さな目標でも達成したらうれしいでしょう。脳が快感を記憶し、それが次のやる気につながる。だから例えば、余裕を持って達成できる目標を立ててみる。そうすると、ちょっと時間が余るから少し余分にやる。スモールステップアップ、「できた」+「目標以上にできちゃった」という自己肯定です。これが結果として大きな目標につながるのではないのでしょうか。

逆に、大きな夢を持つことの一つの意味は「イデオモーター」だと思つてます。強く念じると、動かそうと意識しなくても、考えがそのまま表現に出てしまうことをいいます。例えば、サッカーの試合を見ていて、思わず力が入って手足が動いてしまうとか。

将来何がしたいかというのがあったとしたら、本当に強く念じていると、顔の表情にも出るんですよ。好きなものを見ると瞳孔が開く、そして目がうるんでキラキラするという原理です。仕事でも、上司が表情を見て、こいつは何か今のこと、その部下を使ってみたいかなる。そうするとふとチャンスがめぐってくるかもしれない。「夢を持つ」ということにおけるイデオモーターの意味は、脳科学的に見ても大きいのではないかと僕は思っています。

Educo Salon

前号について寄せられたご感想です。

- ◆小柴昌俊先生のインタビューで、教科を好きになる前にその先生を好きにという一文があった。人間教師の本当の姿に接してこそ、次世代を担う子を育成できるのだと思う。(北海道 榊原勝三)
- ◆「軽度発達障害を抱える子どもたちへの支援」は二編とも深い内容で、現場では知っているようでも、実践化できるまでには理解していない。さらに附加して、現場の実践につなぐ方策が欲しい。(大分県 野村 新)
- ◆新しい編集の工夫で内容が充実し、全般にすっきりしたように思う。(山形県 佐藤 進)
- ◆片岡安祐美さんの「ほっとな出会い」は、読んでいて思わず頬がゆるむ。何かの機会に子どもたちに話してやりたい内容。(福岡県 武末正史)

なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命のびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。